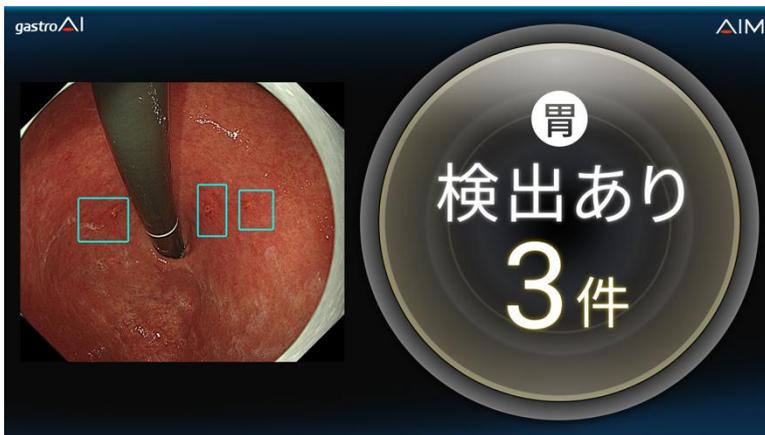


内視鏡 AI について

2023 年の統計では、胃がんは男性のがん死亡数 3 位、女性では 5 位を占めています。

胃がんの 5 年生存率は、ステージ I では 91.2%、II では 80.9%、III では 54.7%、IV では 9.4%と報告されており(国立がん研究センター)、早期発見により治る可能性が高い癌です。当院では、2025 年 7 月より内視鏡検査時に診断を補助する AI(人工知能)システムを導入いたしました。内視鏡 AI の併用によって、より早期の病変の発見に寄与いたします。



当院で導入している内視鏡 AI(AI メディカル社製 gastroAI™ model-G2)の特徴は

1. 病変の検出率の改善

gastroAI™-modelG2 の評価試験で、AI 内視鏡は内視鏡熟練医単独よりも病変の検出感度が高いことが示されました(AI 内視鏡併用 83.5% v.s.内視鏡熟練医単独 66.4%)。AI 内視鏡併用により平坦な早期胃がんなど、一見視認しづらい病変をより高感度で発見することが期待されます。

2. 検査中にリアルタイムに解析結果を表示

内視鏡検査中にリアルタイムで疑わしい領域を示すことで、内視鏡医はその場で病変に近接して観察したり、専用の色素や特殊な光(narrow band imaging)で観察することでより精緻な診断を行うとともに、必要に応じて細胞を一部採取し顕微鏡で腫瘍細胞の有無を調べます。

当院では保険診療の胃カメラで AI 内視鏡を併用しております。